

企画セッション

◆ オープンに開発される技術のガバナンス戦略 ◆

【概要】

あらゆる分野で製品のConnected化、Smart化が進んでいる。複雑な技術開発が求められる中、個社の力には限りがあり、オープンな技術開発が多くの分野で行われつつある。そのような中、どのように競争優位を確立するのか。本セッションでは研究開発者や知的財産担当者としての関心事項である、研究開発戦略上何を重視すべきかについて、最新の経営学の知見を元に議論をする。

とくに取り上げるのが3G/4Gの無線通信技術の国際的な開発競争である。この中で、QualcommやHuawei、Samsung Electronicはどのように優位を形成していったのかを、安本教授の研究成果を元に読み解く。

本セッションの論点となるのは以下の3つである。

- 多数のプレーヤーの協力と競争のもとで生み出される技術システムの中でどのような者が競争優位を確立しやすいのか
- 知的財産権の利活用戦略との関係はどのようなものか
- どのような分析をすると競争力形成が可視化しやすいのか

なお、本セッションはSEP研究会 (<https://ipr-study.wixsite.com/sep-research-japan>) との共催として行う。

【内容】

話題提供：オープン技術のガバナンス戦略

安本 雅典 (横浜国立大学 大学院 環境情報研究院 教授)

コメント：研究からの知見に対する実務家としての評価、経営学者へ求めたいこと

守屋 文彦 (Nokia Technologies Japan 株式会社 統括責任者)

パネルディスカッション

パネリスト：安本 雅典、守屋 文彦、

二又 俊文 (SEP研究会座長、東京大学 未来ビジョン研究センター 客員研究員)

モデレーター：吉岡 (小林) 徹 (一橋大学 イノベーション研究センター 准教授)

話題：

- 6Gを見据えた技術戦略のあり方
- 標準必須特許を含む知的財産権の利活用のあり方

質疑応答

企画セッション

◆ オープンに開発される技術のガバナンス戦略 ◆

【講演者・コメンテーター（登壇順）】

安本 雅典（やすもと まさのり）（横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授）

1993年東京大学大学院社会学研究科修士課程修了。1996年東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。信州大学経済学部、東京大学大学院経済学研究科、Wharton School, Univ. of Pennsylvania, 青山学院大学経営学部等を経て2012年より現職。専門はイノベーション・マネジメント、戦略論。主な著書は『オープン化戦略：境界を超えるイノベーション』（有斐閣、2017年）。横浜国大 IAS 主任研究者。内閣府 SIP/NEDO 技術委員。

守屋 文彦（もりや ふみひこ）（Nokia Technologies Japan 株式会社 統括責任者）

1978年ソニー株式会社 知財部門入社。Sony Corporation of America 駐在、知的財産渉外部長、知的財産部長、VP 知的財産センター長、ソニー知的財産ソリューション（株）取締役社長を経て、現職。日本知的財産協会 2010 年度理事長、産業構造審議会 知的財産政策部会 特許制度小委員会 委員、同審査基準専門委員会 委員などを歴任。

二又 俊文（ふたまた としふみ）（東京大学 未来ビジョン研究センター 客員研究員）

2014年より SEP 研究会座長。ドイツ、シンガポール駐在後、パナソニックモバイルで海外知財交渉責任者（CLS）を経て、2007年より欧州知財管理会社日本法人代表（5年間）。2012年より現職。三菱総合研究所客員研究員。東大戦略タスクフォースリーダー育成プログラム講師。シンガポール i2P Ventures/Piece Future 相談役。

吉岡（小林） 徹（よしおか とおる）（一橋大学 イノベーション研究センター 准教授）

2007年大阪大学大学院法学研究科博士前期課程修了。2015年東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻博士課程修了。博士（工学）。株式会社三菱総合研究所、東京大学大学院工学系研究科を経て、2024年より現職。専門は知的財産マネジメント、科学技術政策。主な著書として『イノベーション&マーケティングの経済学』（中央経済社）。

以 上